湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 保健医療学部 看護学科
名 前 伊藤ふみ子
作成日 2025年4月28日

【目次】

1. 教育の責任	・・・1
2. 私の理念・目的	・・・1
1) 私の理念	
2) 理念をもつに至った背景	
3. 教育の方法・戦略	・・・2
1) 対象を理解しようとする姿勢の育成	
2) 自分の考え・行動を省察していく力の育成	
4. 学習成果	・・・3
1) グループワークとプレゼンテーションで自らの力を育成	
2) 臨地実習での体験を振り返り発展させる力を育成	
5. 改善のための努力	・・・4
6. 今後の目標	・・・5
1) 短期目標	
2) 長期目標	
【添付資料】	・・・5

1. 教育の責任

本学は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という建学の理念をもとに、看護実践力を養い地域社会に貢献できる看護職者を輩出することを目的としている。その中で、カリキュラムに沿って講義や演習・実習指導を行いながら、自ら考えて行動できる看護実践者を育成することが責務である。

1) 令和2年度は以下の科目を担当している

- ・3年次:成人看護方法論Ⅱ、ナースングプロセスⅡ、リハビリテーション看護論、看護倫理
急性期看護実習

1) 講義・演習では、病気をもちながら生活する人々の病期にあった看護ケアの知識・技術等の習得を目指している。さらに看護実践において倫理観に基づいて行動できる専門職の育成を目指している。

2) 急性期実習では、プレホスピタルケアとインホスピタルケアの2つの観点から急性期看護の実践能力育成を目指している。

- ・4年次:統合実習

成人期にある人々の健康問題を的確なアセスメントし、必要となる看護支援を実施できる能力の育成を目指している。

2) 令和7年度の学科内委員会活動

- ・看護学科内国家試験対策委員として、学生達が4年間の学修成果を看護師国家試験において十分に発揮できるよう支援していく。さらに、成績低迷者へは早期に学修状況を把握し、必要となる支援を実施していき、国家試験合格100%を目指す。
- ・就職支援プロジェクトチームの一員として、低学年から段階的継続的な就職支援を実施できるよう計画する。各学年チューターと連携し、学生達が自身に合った就職ができるよう自己分析の機会をもつ。学生達1人ひとりがキャリアアップを目指していけるような支援をしていく。
- ・神奈川県看護師等養成機関連絡協議会担当として、神奈川県内の看護師等養成機関のが実施している総会や会議へ参加し情報共有をしている。

3) チューター活動

3年次チューターとして14名の学生を受け持ち、学修や学生生活の指導を行っている。さらに、3年次生国家試験対策を担当し、国家試験対策の模試や講座の運営をおこないつつ学力支援をおこなっている。また、学生が国家試験対策を自分事として捉えることができるよう、学生委員と連携して学年全体で学習意欲が向上するよう働きかける。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

湘南医療大学看護学科の教育目的・目標、ディプロマポリシーに基づき、教育活動においては、以下の3点を目的としている。

- ①【人間の個を尊重できる力】

看護の対象者を生活者として捉え、尊厳を持った1人のかけがえのない存在として権利を擁護する力を養うことができる(患者に傾倒する力)。

②【エビデンスに基づく実践力】

あらゆる対象者の生活と健康課題を理解し、エビデンスに基づき、対象者に必要な看護支援を提供できる力を養うことができる(臨床判断能力の育成)。

③【チームで連携し協同する力】

各専門職の専門性や強みを尊重しあい協同して、対象や望む生き方や自己決定の支援をすることができる力を養うことができる。

※以上3点の力を養うためには、学生の主体性や考えて行動していく力、対象の最善とは何かを考え抜く力を養うことが基盤となると考える。

2) 理念をもつに至った背景

看護は、様々な場において人々の健康問題に関与して行きつづける役割を担っている。進展する少子高齢化社会、医療の高度化が進む現代において、人々が看護に求める役割は、増大し、看護の専門性も変化し続けている。2019年度の指定規則の改正では、新たに専門職間協同、ICT、臨床判断の育成を目指した教育を含めることが示されている。これらに伴い、私たち看護基礎教育の現場において、今までの習慣から脱却し広い視座に立った看護に変革する必要性が求められている。また、看護教育の場において「看護職は専門職」であるという認識を育成していくことであると考え。1つの領域に秀でた能力や知識を育成することではない。Styles.Mの専門職の定義を基に勝原は、日本の看護職の専門性を5つの要素を挙げており、①社会的意義、②最高で最上の仕事へのコミットメント、③同僚性、集合性、④自己実現・自己成長、⑤倫理・道徳規範としている。私は、これらの5つの専門職の要素を改めて見直し、看護基礎教育携わる1人として看護教育の場面において、教育者自らがこれらの5つの要素を意識し、学生に関わっていくことが大切であると考え。それは、対応する学生に真摯に向き合い、学生の持っている力を信じることを意味する。また、学生達が、知識と技術を駆使し、看護の提供の直前まで「最善とは何か」を考え抜く、考え続ける力を育成していきたいと考えている。

3. 教育の方法・戦略

1) 対象を理解しようとする姿勢の育成

看護者は、対象者を生活者として捉え、対象者の健康問題を把握し看護展開していくためには、対象を理解することが求められる。対象を理解するためには、コミュニケーション能力を向上させていくことが重要となるが、現代の学生は多様な世代を関わる経験が乏しく、社会性の低下や人との関係性が希薄となっていると指摘している。そのような学生にとっては、緊張を伴う臨床現場で初対面の患者との関わりの中で、対象理解や援助関係を深めていくことは容易ではない。そのため、演習等の授業の中で、シミュレーション教育という授業方法が展開される

ことが多い。シミュレーション教育は、リアリティを重視し臨床現場に近い学習環境を作ることによって、学生が状況や患者をイメージでき、臨床での実践能力の強化につなげることができるといわれている。また、模擬患者を活用することで、臨場感を持って患者の立場から有益なフィードバックが得られ達成感や満足感につながる。そのため、シミュレーション教育は、学生は看護のリアリティを疑似体験し、感情を揺さぶられ、学習姿勢が変化するという教育効果が報告されている。2025年度新カリキュラムのナーシングプロセスⅡ(3年生科目)においても、シミュレーション教育の技法を活用して展開した。紙上事例患者(胃がんの手術を受けた患者の事例)の状況理解を深めるために、教員が患者役となり術後の状況を演じてもらい動画を作成した。学生の反応は、「術後の疼痛の変化や状態の変化がわかりやすい」との反応が聞かれ、対象理解に役立ったと考えられる。また、術後1日目の看護計画の立案実践の場面では、教員が患者役となり看護師役の学生から立案した看護ケアを受けた。ケア展開では、デブリーフィングや患者役の教員からのフィードバックもあり、学生は、緊張感のある中で考えたケアをより追加・修正する経験をする事ができた。学生は、看護計画の実施・評価・修正の意味が理解できたとの反応を得ることができた。今後も、学生が対象理解や対象にあった看護展開について学習を深める経験積み上げることができるようシミュレーション教育の教育技法を活用した授業運営を行っていききたい。

2) 自分の考え・行動を省察していく力の育成

Dewey(1938)は、人は学習する上でただ経験するだけではなく、その経験全体を振り返り、自己の行動、思考を言語化し、その時の判断について再度考え(reflect)その意味付けをすることで、自己の学びとなると述べている。看護実践力を身に着けるにあたり、省察は重要な位置づけとなる。ナーシングプロセスのシミュレーション学習において、毎授業ごとの自身の看護実践をグループで省察をする時間を設け、気づきや思考の発展を導きだす指導をされていた。それを基に、ナーシングプロセスⅡの授業および、私の授業では自分の考えや行為を省察する時間を設けている。さらに、自らの考えを他者に表出することによって他者から意見やアドバイスを受けることで知見が広がっていると思われた。今後も授業内で学生自身の思考内容やケア実施内容等を省察する時間を設け、主体的な学びにつなげていけるようにしていきたい。

4. 学習成果

1) グループワークとプレゼンテーションで自らの考えを発信する力を育成

ナーシングプロセスⅡ(看護過程演習)では、「なぜそのように考えたか」「問題のどこに着目したか」といった思考の過程を重視した。教員は学生の発言を求めるように問いに対し、「その場で」「自分で」考え、自分の言葉で意見を発信することができる機会時間をできる限り設けている。

● 学生のコメント(リフレクションペーパーより)

- ・自分ではしっかりと調べられていたと思っていたが先生の指摘のおかげでたくさんの疑問が見つかったため、まだまだ頑張ろうと思った。

- ・発表を行うことで他のグループの発表の良さを学ぶことができた。質問をもらうことでより学びを深めることができた。
- ・グループワークを行うことは、自分自身の振り返りや新たな学びの発見があり実りのある時間となっている。

2) 臨地での体験を振り返り学びを発展させる力を育成

臨地実習(急性期看護実習)では、学生が既習の学習内容と臨地での看護実践を統合させることができるような工夫をしている。病態の理解が進むように病態カンファの実施や臨地での体験をリフレクションし自らの看護実践の評価・修正ができるような時間を設けるようにしている。

●2024年度授業評価アンケート結果

※2024年度の授業評価アンケートの返却がないため記載せず。

5. 改善のための努力

1) 自分で考えて行動できる看護師になるために省察力をつける

学生が授業に主体的に取り組めるよう、講義内容を活かすことができる課題解決学修やグループ学習、省察をする時間を意図的に取り入れる。

2) 事前・事後学習の工夫

授業に活きる事前・事後学修を工夫し、授業と自己学習が繋がり合うようにしていく。自己学習とは、事前・事後学修のみならず、自己課題解決学修や実習を意識した自主学修をさしている。

以上 2 点の工夫をしていくとともに、学生に真摯に向き合い、自分自身が改善へ向けて具体的な取り組みを丁寧に積み上げていきたい。また、学科として連携して取り組むべき科目があることを認識しているので、その必要性に鑑み、積極的に科目間連携を進め、授業内容を深化させていく。

6. 今後の目標

1) 短期目標

- ① 学生の主体的な学びにつなげる事前事後学修の検討(2025年度3月31日まで)
- ② 学生の興味関心を引き出す学習教材の開発(2026年度3月31日まで)
- ③ 学びの連環を意識した有機的な科目間連携

2) 長期目標

今後の臨床現場では、看護実践力の育成が求められている。領域横断で実施している新カリキュラムを実施するにあたり、臨床判断の育成をするために、気づきの育成、気づきから李

臨床判断、看護実践に繋がるシミュレーション教育を充実させていく。その過程において思考力・判断力・表現力を育むとともに、自ら課題を見つけ、自力解決することによって学び方を学び、課題解決力を身に付けさせる。

【添付資料】

資料 1:シラバス

資料 2:授業評価アンケート結果

事例A(周手術期患者の看護展開)と事例B(慢性期にある患者の看護展開)の授業計画

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
ナーシングプロセスⅡ Nursing Process Ⅱ	必修	演習	2単位 (90時間)	3年前期	川本利恵子・内藤亜由美・伊藤ふみ子・望月千夏子・岡多恵・陶山克洋・塚原ゆかり・野口京子・松島泰恵・松永雄至・石橋史子・倉橋悠子・三堀いずみ・本間誠淳・関谷潤	○
ナンバリングコード	HNSC2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP2) エビデンスに基づく実践力					
基盤科目	DP3) 援助的コミュニケーション力 DP5) 安全を保障する力					
授業概要	ナーシングプロセスⅠで習得した思考を基盤とし、あらゆる年代やさまざまな場における対象者への健康問題・課題への看護実践に活用できる能力を身に着ける					
到達目標	1) 紙上事例患者の看護展開に必要な病態や症状の理解を深めることで、必要な看護に気づき、言語化することができる。 2) 紙上事例患者の健康障害の程度、生活背景、価値観やセルフケア能力をアセスメントし、健康上の課題を記述することができる。 3) 紙上事例患者の健康上の課題に対して、優先順位を考えながら患者の背景を考慮した看護計画の立案をすることができる。 4) 紙上事例患者に必要な看護実践を展開し、ケアの評価をすることができる。 5) 紙上事例患者の看護展開において、継続看護の視点を持ち患者の社会復帰を目指した看護を述べるることができる。 6) 対象者の発達段階や看護活動の場の違いによる看護展開の特徴について述べるることができる。 7) グループワークにおいて自己の考え他者の考えを尊重しながら、効果的な意見交換ができ発表することができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1回 4月4日 2限	ガイダンス、看護過程とは 講義室4	授業ガイダンス、看護過程の展開の解説 事前学習(30分) ナーシングプロセスⅠ、ヘルスアセスメントⅡの授業を復習しておく。 事後学習(30分) 講義資料を読み復習する。			内藤亜由美 他看護学科教員	
4回 4月11日 1限	ナーシングプロセスⅡ 看護基盤実習Ⅱで実践した看護の振り返り① 体育館	看護基盤実習Ⅱで実践した看護の振り返り 事前学習(30分) 看護基盤実習Ⅱで実施した看護展開の振り返りをしておく。 事後学習(30分) 看護基盤実習の振り返りにより明らかとなった自己課題の克服に向けて復習をする。			伊藤ふみ子 他看護学科教員	
5回 4月11日 2限	看護基盤実習Ⅱで実践した看護の振り返り② 体育館	看護基盤実習Ⅱで実践した看護の振り返り 事前学習(30分) 看護基盤実習Ⅱで実施した看護展開の振り返りをしておく。 事後学習(30分) 看護基盤実習の振り返りにより明らかとなった自己課題の克服に向けて復習をする。			伊藤ふみ子 他看護学科教員	
6回 4月18日 3限	急性期(周手術期)患者のナーシングプロセス 基礎知識: 胃がん 講義室11・13	事例患者の看護に必要な知識を確認を確認し整理する(胃がん): グループワーク・発表 事前学習(30分) 胃がんの病態や症状について発表が行えるようPP資料を作成しておく。 事後学習(30分) グループワークや発表で学んだ内容を自身の春季課題に追記・修正しておく。			岡多恵 他看護学科教員	
7回 4月18日 4限	急性期(周手術期)患者のナーシングプロセス基礎知識: 手術治療・麻酔 講義室11・13	事例患者の看護に必要な知識を確認を確認し整理する(手術治療・麻酔): グループワーク・発表 事前学習(30分) 手術治療・麻酔についてプレゼンテーションが行えるようPP資料を作成しておく。 事後学習(30分) グループワークやプレゼンテーションで学んだ内容を自身の春季課題に追記・修正しておく。			伊藤ふみ子 他看護学科教員	
8回 4月25日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス基礎知識: 侵襲理論 講義室11・13	事例患者の看護に必要な知識を確認を確認し整理する(侵襲理論): グループワーク 事前学習(30分) 手術侵襲について発表が行えるようPP資料を作成しておく。 事後学習(30分) グループワークやプレゼンテーションで学んだ内容を自身の春季課題に追記・修正しておく。			伊藤ふみ子 他看護学科教員	
9回 4月25日 4限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス基礎知識: 手術合併症と看護 講義室11・13	事例患者の看護に必要な知識を確認を確認し整理する(手術合併症とその看護): グループワーク・発表 事前学習(30分) 手術合併症とその看護について発表ができるようPP資料を作成しておく。 事後学習(30分) グループワークや発表で学んだ内容を自身の春季課題に追記・修正しておく。			野口京子 他看護学科教員	
10回 5月7日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習: 情報の整理 講義室11・13	ヘンダーソンを基にした7項目の説明、情報収集の方法 事前学習(30分) ナーシングプロセスⅠで学んだヘンダーソンの基本的欲求について復習しておく。 事後学習(30分) ヘンダーソンを基にした7項目のアセスメントの視点について復習をする。			伊藤ふみ子 倉橋悠子 他看護学科教員	
11回 5月7日 4限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習: アセスメント 呼吸・循環・体温① 講義室11・13	事例Aの呼吸・循環・体液のアセスメント: 個別ワーク 事前学習(30分) 第6回から第10回の授業資料を読む 事後学習(30分) わからない点を整理して次回教員に質問できるようにする。			内藤亜由美 他看護学科教員	
12回 5月9日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習: アセスメント 呼吸・循環・体温② 講義室11・13	事例Aの呼吸・循環・体液のアセスメント: 個別ワーク 事前学習(30分) 第6回から第10回の授業資料を読む。 事後学習(30分) グループワークに参加できるように個人ワーク内容を整理する。			内藤亜由美 他看護学科教員	
13回 5月9日 4限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習: アセスメント 呼吸・循環・体温③ 講義室11・13	事例Aの呼吸・循環・体液のアセスメント: グループワーク 事前学習(30分) 第11回・12回の個人ワークの内容を整理する。 事後学習(30分) グループワーク内容を整理し、グループのまとめを行う。			内藤亜由美 他看護学科教員	

16回 5月16日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:アセスメント 呼吸・循環・体温④ 講義室11・13	事例Aの呼吸・循環・体液のアセスメント:グループワーク発表、解説 事前学習(30分)第13回のグループワーク内容について発表準備。 事後学習(30分)授業資料を読みグループワークの結果を振り返る。	伊藤ふみ子 他看護学科教員
17回 5月16日 4限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:アセスメント 栄養・代謝① 講義室11・13	事例Aの栄養・代謝のアセスメント:個別ワーク、グループワーク 事前学習(30分)第6回から第10回の授業資料を読む。 事後学習(30分)グループワーク内容を整理し、グループのまとめを行う。	内藤亜由美 他看護学科教員
19回 5月23日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:アセスメント 栄養・代謝② 講義室11・13	事例Aの栄養・代謝のアセスメント:グループワーク発表、解説 事前学習(30分)ヘンダーソンの基本的欲求7項目に基づき栄養・代謝について情報の整理とアセスメントをすすめておく。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を個人ワークに追記・修正する。	伊藤ふみ子 他看護学科教員
20回 5月23日 4限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:関連図① 講義室11・13	事例Aの関連図作成:グループワーク 事前学習(30分)図書館で、周手術期事例の関連図を探し、それを参考にして急性期事例のアセスメントから関連図を作成しておく。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を個人の関連図に反映できるよう追記・修正する。	伊藤ふみ子 他看護学科教員
21回 5月30日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:関連図② 講義室11・13	事例Aの関連図作成:グループワークの発表、解説 事前学習(30分)作成した関連図にヘンダーソンの基本的欲求7項目に関するアセスメント内容が網羅されるよう作成しておく。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を個人の関連図に反映できるよう追記・修正する。	伊藤ふみ子 他看護学科教員
22回 5月30日 4限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:看護問題① 講義室11・13	事例Aの看護問題の抽出、原因・誘因・関連因子・症状・徴候、優先順位の検討:個人ワーク、グループワーク 事前学習(30分)アセスメント、関連図から看護問題を検討しておく。 事後学習(30分)抽出された看護問題の原因・誘因・関連因子を確認する。	岡多恵 他看護学科教員
23回 6月6日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:看護問題② 講義室11・13	事例Aの看護問題の明確化:グループワークの発表、解説 事前学習(30分)抽出された看護問題の優先順位を検討し看護問題リストを作成する。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を個人の関連図、問題リストに反映できるよう追記・修正する。	岡多恵 他看護学科教員
26回 6月13日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:看護計画① 講義室11・13	事例Aの看護計画を立案する:グループワーク 事前学習(30分)看護問題に対し、期待させる結果(短期目標)を検討しておく。 事後学習(30分)グループワークで検討した看護計画について個人の看護計画に反映できるように追記・修正する。	倉橋悠子 他看護学科教員
27回 6月13日 4限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:看護計画② 講義室11・13	事例Aの看護計画を立案する:グループワークの発表、解説 事前学習(30分)看護計画の具体的な介入方法を検討しておく(5W1H)。 事後学習(30分)看護計画の内容が5W1Hになっているか確認する。	倉橋悠子 他看護学科教員
31回 6月20日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:看護介入の実施、SOAP記録① 講義室11・13	事例Aの看護計画の実施、SOAP記録:グループ演習 事前学習(30分)模擬患者に看護計画の実施ができるように具体的な方法を検討しシナリオを作成しておく。 事後学習(30分)グループワークで検討した看護計画について個人の看護計画に反映できるように追記・修正する。	石橋史子、 三堀いずみ 関谷潤 他看護学科教員
32回 6月20日 4限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:看護介入の実施、SOAP記録 講義室11・13	事例Aの看護計画の実施、SOAP記録:グループ演習 事前学習(30分)模擬患者へ実施した看護計画の実施によって修正が必要な箇所を明らかにし修正・追記しておく。 事後学習(30分)看護計画の実施によって観察された模擬患者の状態や反応をSOAP記録にまとめる。	石橋史子、 三堀いずみ 関谷潤 他看護学科教員
34回 6月27日 3限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:SOAP記録 講義室11・13	SOAP記録の演習、看護計画・評価とSOAPの関係の解説 事前学習(30分)看護計画の実施によって観察された模擬患者の状態や反応をSOAP方式で記録しておく。 事後学習(30分)講義で学んだ内容をもとに、記載した個人のSOAP記録を追記・修正する。	野口京子 他看護学科教員
35回 6月27日 4限	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:評価 講義室11・13	事例Aの看護計画を評価する:講義、個人ワーク 事前学習(30分)模擬患者に実施した看護計画の内容、SOAP記録の見直しをしておく。 事後学習(30分)講義資料をもとに、看護計画の評価の方法について復習する。	内藤亜由美 他看護学科教員
38回 7月4日 3限	慢性疾患患者の特徴 講義室11・13	慢性疾患をもつ患者の特徴と慢性期における看護過程の展開の留意点に関する講義 事前学習(30分)成人看護学、成人看護方法論Ⅱの講義資料を読む 事後学習(30分)講義資料を読む	内藤亜由美 他看護学科教員
39回 7月4日 4限	慢性疾患患者のナーシングプロセス 基礎知識:糖尿病 講義室11・13	事例B:患者の看護に必要な知識を確認を確認し整理する:糖尿病 事前学習(30分)既習の糖尿病に関する授業資料を読む 事後学習(30分)糖尿病に関する既習の知識を復習する。	伊藤ふみ子 他看護学科教員
40回 7月11日 3限	慢性疾患患者のナーシングプロセス演習:情報の整理 講義室11・13	事例B:事例の紹介、情報整理の視点 事前学習(30分)ヘンダーソンの基本的欲求7項目について確認をしておく。 事後学習(30分)慢性事例について心理・認知的側面、社会・発達の側面と栄養・代謝の項目について情報を整理する。	伊藤ふみ子 他看護学科教員
41回 7月11日 4限	慢性疾患患者のナーシングプロセス演習:アセスメント 心理・認知的側面、社会・発達の側面 講義室11・13	事例B:アセスメント 心理・認知的側面、社会・発達の側面に関するグループワークと解説 事前学習(30分)成人看護学、成人看護方法論Ⅱの慢性期疾患患者の看護の授業資料を読む 事後学習(30分)授業資料を読み、グループワーク結果を振り返る	内藤亜由美 他看護学科教員

42回 7月18日 3限	慢性疾患患者のナーシングプロセス 演習:アセスメント 栄養・代謝 講義室11・13	事例B:アセスメント 栄養・代謝に関するグループワークと解説 事前学習(30分)栄養・代謝の項目についてアセスメントをすすめておく。 事後学習(30分)グループワークで学んだ内容をもとに個人ワークを追記・修正する。	伊藤ふみ子 他看護学科教員
43回 7月18日 4限	慢性疾患患者のナーシングプロセス 演習:関連図・看護問題 講義室11・13	事例B:関連図・看護問題の解説 事前学習(30分)図書館で糖尿病事例の関連図を探し、それを参考にして慢性期事例の関連図を作成しておく。 事後学習(30分)講義で学んだ内容を個人ワークで作成した関連図に反映させていく。	伊藤ふみ子 他看護学科教員
44回 7月18日 5限	慢性疾患患者のナーシングプロセス 演習:看護計画 講義室11・13	事例B:看護計画立案 グループワーク、解説 事前学習(30分)模擬患者に実施する看護計画の内容を実施できるように準備しておく。 事後学習(30分)看護計画の実施によって観察された模擬患者の状態や反応をSOAP方式で記録しておく。	伊藤ふみ子 岡多恵 他看護学科教員
45回 7月24日 4限	ナーシングプロセスⅡのまとめ 看護サマリー 講義室11・13	ナーシングプロセスⅡのまとめ、看護サマリーの記載方法について 事前学習(30分)今までの講義・演習資料を読み返しておく。 事後学習(30分)これまでの授業を踏まえて自己の課題や疑問点を整理し、学習を深める。	内藤亜由美 他看護学科教員

【共通】

評価	急性期事例、慢性期事例に関するナーシングプロセス展開:レポート80%(急性期事例-60%、慢性期事例20%)、その他の提出物20%
課題に対する フィードバックの方法	講義時や演習時に口頭、またはmanabaにて適宜フィードバックを実施
教科書	ナーシンググラフィカ基礎看護学2/基礎看護技術Ⅰ/松尾ミヨ子他/メディカ出版
参考図書など	1)看護がみえるvol.4 ナーシングプロセスの展開/医学情報科学研究所編/メデックメディア/第1版/ISBN:978-4-89632-801-1 2)基礎看護技術Ⅰ/茂野かおる、他/医学書院/第19版/ISBN:978-4-260-04992-4
アクティブ・ラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、シミュレーション教育を取り入れて実施する。
実務経験のある 教員による授業	看護師としての実務経験を活かし実践的な講義・演習を行う。
留意事項	本科目は、ナーシングプロセスⅠとの関連が深く、また全ての看護領域における看護実践の方法論として用いられるため、事前・事後学修、資料などをよく読み学修を積み重ねて行けるように自ら取り組む姿勢を重視する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
看護倫理 Nursing Ethics	必修	講義・演習	1単位 (30時間)	3年前期	清水奈緒美、勝井恵子、伊藤ふみ子、岡多恵、三堀いずみ	○
ナンバリングコード	HNSB2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 人間の命と個を尊重できる力 DP2) エビデンスに基づく実践力 DP4) チームで連携し協働する力					
基盤科目						
授業概要	看護の職業倫理を看護の実践に結びつけて学修する。看護の歴史と看護の職業倫理、人間の尊厳、人権、アドボカシー、正義の倫理、ケアの倫理など看護倫理の基本概念について学ぶとともに、看護師の倫理綱領や倫理の諸規定とその変遷、活用方法について学修し、医療をめぐる倫理問題で看護が負うべき責任について考察する。また遭遇しやすい倫理的ジレンマの事例について、アクティブ・ラーニングを活用し、最良の判断を導く過程について学修する。以上の学びを通して、生涯にわたり倫理的感性を培っていく内容とする。					
到達目標	1) 看護倫理となる基本的知識と倫理の諸規定とその変遷を説明できる。 2) 看護倫理のアプローチについて説明できる。 3) 看護の職業倫理として基本概念について説明できる。 4) 看護師の倫理綱領とその活用方法について説明できる。 5) 医療をめぐる倫理問題で看護が負うべき責任について考察できる。 6) 遭遇しやすい倫理的ジレンマの事例について、最良の判断を導く過程について説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	看護倫理とは	看護倫理の基礎となる知識について学修する。 事前学習(15分): ガイダンス資料参照 事後学習(15分): 復習・課題学習を行い単元目標の達成状況を確認する			清水奈緒美	
2	看護倫理と実践・看護倫理綱領について	看護倫理と実践、看護倫理綱領について学修する。 事前学習(15分): ガイダンス資料参照 事後学習(15分): 復習・課題学習を行い単元目標の達成状況を確認する			清水奈緒美	
3	看護倫理のアプローチについて	生命倫理の原理・原則、倫理的なジレンマの解決にむけた分析・思考のプロセス等を学修する。 事前学習(15分): ガイダンス資料参照 事後学習(15分): 復習・課題学習を行い単元目標の達成状況を確認する			清水奈緒美	
4	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面①について)	【体験の演習】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分): ガイダンス資料参照 事後学習(15分): 復習・課題学習を行い単元目標の達成状況を確認する			清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ	
5	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面①について)	【グループワーク】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分): 講義資料を読み返す 事後学習(15分): 感じ考えたことを整理する			清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ	
6	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面①について)	【グループワーク】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分): 講義資料を読み返す 事後学習(15分): 感じ考えたことを整理する			清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ	
7	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面①について)	【グループワーク】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分): 講義資料を読み返す 事後学習(15分): 感じ考えたことを整理する			清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ	
8	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面①について)	【グループワーク・発表】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分): 講義資料を読み返す 事後学習(15分): 感じ考えたことを整理する			清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ	
9	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面②について)	【グループワーク】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分): 講義資料を読み返す 事後学習(15分): 感じ考えたことを整理する			清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ	
10	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面②について)	【グループワーク】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分): 講義資料を読み返す 事後学習(15分): 感じ考えたことを整理する			清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ	
11	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面②について)	【グループワーク・発表】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分): 講義資料を読み返す 事後学習(15分): 感じ考えたことを整理する			清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ	
12	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面③について)	【グループワーク】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分): 講義資料を読み返す 事後学習(15分): 感じ考えたことを整理する			清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ	

13	看護実践上の倫理的概念&倫理的課題へのアプローチ(場面③について)	【グループワーク】看護場面における倫理を事例を検討して理解する。 事前学習(15分):講義資料を読み返す 事後学習(15分):感じ考えたことを整理する	清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ
14	臨地実習における倫理	【グループワーク・発表】臨地実習における倫理を検討して理解する。 事前学習(15分):講義資料を読み返す 事後学習(15分):感じ考えたことを整理する	清水奈緒美、伊藤ふみ子、岡多恵、三堀いずみ
15	看護実践における倫理的課題と対応についてのまとめ	【グループワーク】看護倫理の授業から学んだことを言語化する。 事前学習(15分):講義・教科書、グループワーク等から学んだことを振り返る。 事後学習(15分):全学修内容を振り返り、到達目標の達成状況を確認する。	清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ

評価	相互評価・課題レポート
課題に対するフィードバックの方法	課題レポート後はフィードバックする。
教科書	系統看護学講座 別巻 看護倫理/宮坂道夫他/ 医学書院/改訂第3版/ ISBN978-4-260-05299-3
参考図書など	①ケアの本質/ミルトン・メイヤロフ(著)、田村真・向野宣之(訳)/ゆるみ出版/ISBN 978-4946509117 ②看護倫理/アン・J. デービス他/前原澄子監修/医学映像教育センター/ISBN978-4862431851 ③看護倫理学:看護実践における倫理的基盤/松木光子編集/ヌーベルヒロカワ/ISBN978-4-86174-037-4 ④臨床倫理ベーシックレクチャー―身近な事例から倫理的問題を学ぶ/石垣靖子, 清水哲郎編集/日本看護協会出版会/ISBN978-4818016774
アクティブ・ラーニング	グループワーク,プレゼンテーション
実務経験のある教員による授業	
留意事項	看護学を学ぶ上で看護倫理は大事な科目です。看護実践する上で疑問に思ったこと、考えたことをアサーティブに発言していくことが求められます。図書館にある書籍(倫理、哲学書)や配布資料を活用し事前・事後学習を十分に行い、グループワークによるディスカッションに積極的に取り組んでください。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
リハビリテーション看護論 Rehabilitation Nursing		必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	渡邊眞理・内藤亜由美・伊藤ふみ子・ 佐々木千佳・清水奈緒美・三堀いずみ	○
ナンバリングコード	HNSD2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1)人間の命と個を尊重できる力 DP4)チームで連携し協働する力 DP5)安全を保障する力					
応用科目							
授業概要	リハビリテーションの理念を理解し、日本や海外におけるリハビリテーション看護について、歴史的変遷をふまえて基本的知識と技術を学修する。リハビリテーションチームの特徴とチームにおける看護の役割・機能について学修する。						
到達目標	1)リハビリテーションの理念を理解する。 2)日本や海外におけるリハビリテーション看護の歴史的変遷を学修する。 3)リハビリテーション看護の基本的知識と技術を学修する。 4)生活機能障害をもつ人の対象に応じた援助方法を理解できる。 5)リハビリテーションチームの特徴とチームにおける看護の役割・機能について学修する。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員	
1	リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論	リハビリテーションの理念 欧米と日本のリハビリテーションの歴史、ノーマライゼーション、ADL、IADLの理解、リハビリテーション看護に活用できる理論 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				渡邊 眞理	
2	経過別にみるリハビリテーション看護① 急性期	回復過程各期におけるリハビリテーション看護(急性期) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				伊藤ふみ子	
3	経過別にみるリハビリテーション看護②回復期・生活期	回復過程各期におけるリハビリテーション看護(回復期・生活期) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				伊藤ふみ子	
4	経過別にみるリハビリテーション看護③終末期	回復過程各期におけるリハビリテーション看護(終末期):緩和ケアとリハビリテーション 事前学習(30分):がん看護(医学書院)の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				三堀いずみ	
5	経過別にみるリハビリテーション看護④がん	回復過程各期におけるリハビリテーション看護(終末期):がんリハビリテーション 事前学習(30分):がん看護(医学書院)の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				渡邊 眞理	
6	生活機能障害とリハビリテーションと看護①脳卒中	運動機能障害のある人へのリハビリテーション看護(脳卒中) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				三堀いずみ	
7	生活機能障害とリハビリテーションと看護②高次機能障害	高次機能障害のある人の看護(アセスメントと看護の実際) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				伊藤ふみ子	
8	生活機能障害とリハビリテーションと看護③脊髄損傷	脊髄損傷のある人の看護(アセスメントと看護の実際) 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				伊藤ふみ子	
9	生活機能障害とリハビリテーション看護④排泄障害の病態	ストーマリハビリテーションの看護① 排尿障害と排便障害の基本的知識 事前学習(30分): 消化器(医学書院)の該当箇所を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				内藤亜由美	
10	生活機能障害とリハビリテーション看護⑤排泄障害のケア	ストーマリハビリテーションの看護②排尿障害と排便障害の基本的知識と看護の実際 事前学習(30分): 消化器(医学書院)の該当箇所を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する				内藤亜由美	
11	生活機能障害とリハビリテーション看護⑥嚥下障害とは	嚥下摂食障害のある人の看護① 嚥下障害のアセスメント 事前学習(30分)リハビリテーション看護改訂第3版 事後学習(30分):講義資料等を復習する				佐々木千佳	
12	生活機能障害とリハビリテーション看護⑦嚥下訓練	嚥下摂食障害のある人の看護② 嚥下訓練の実際 事前学習(30分)リハビリテーション看護改訂第3版 事後学習(30分):講義資料等を復習する				佐々木千佳	

13	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション看護	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション看護の実際 事前学習(30分):リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する	清水奈緒美
14	施設内リハビリテーションチーム医療	施設内リハビリテーションにおける多職種連携 事前学習(30分)リハビリテーション看護改訂第3版の該当部分を読む 事後学習(30分):講義資料等を復習する	内藤亜由美
15	ピアサポート	障害をもつ人々の心理的支援:ピアサポートの意義 事前学習(30分):障害をもつ人々同士の支援であるピアサポート(患者会)にはどのようなものがあるか調べておく。 事後学習(30分):講義資料等を復習する	内藤亜由美

評価	筆記試験70%、課題等の提出物30%
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して、適宜フィードバックを行う
教科書	1. 看護学テキストNiCEリハビリテーション看護/酒井郁子他/南江堂/改訂第3版/ISBN:9784524246298【全講義で使用】 2. 系統看護学講座 別巻がん看護学/小松浩子他./医学書院/第3版/ISBN:9784260042161【第4・5回講義で使用】 3. 系統看護学講座 成人看護学⑤消化器/南川雅子他/医学書院第/15版, ISBN:9784260035620【第9・10回講義で使用】
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	適宜、事例を用いて、グループワークやディスカッションを行う。
実務経験のある教員による授業	回復期リハビリテーション病棟を有する病院での臨床経験を活かして、リハビリテーション看護の基本的知識やアセスメントの方法を講義する。
留意事項	本科目は、すべての患者に必要とされるリハビリテーション看護の基本的な知識を獲得するものである。臨地実習時にも応用できるものであるため、主体的に取り組んで欲しい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
成人看護方法論Ⅱ Adult Nursing Methodology Ⅱ	必修	講義・演習	1単位 (30時間)	3年前期	内藤亜由美・伊藤ふみ子・渡部節子・清水奈緒美・岡多恵・野口京子・石橋史子・倉橋悠子・三堀いずみ	○
ナンバリングコード	HNSD2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP2)エビデンスに基づく実践力 DP3)援助的コミュニケーション力 DP4)チームで連携し協働する力					
応用科目						
授業概要	慢性的・長期的に経過する健康障害を持つ人のセルフケアを促進し、その人らしい生活を維持するための支援の方法について学修する。さらに、人生の最期のときにある人とその家族に対するケア、遺族へのグリーフケアについて学修する。					
到達目標	1)慢性的な経過をたどる健康障害を有する対象者の特徴、及び慢性期における看護の特徴について説明できる。 2)慢性的な経過をたどる健康障害の病態、治療過程を理解し、アセスメントの視点について説明できる。 3)慢性的な経過をたどる健康障害の病態や治療が、対象者の生活に与える影響について説明できる。 4)慢性的な経過をたどる健康障害を有する対象者への看護援助について説明できる。 5)慢性的な経過をたどる健康障害を有する対象者のセルフケア能力を高め支える支援方法が説明できる。 6)エンドオブライフケアおよび緩和ケアの概念について説明できる。 7)人生の最期のときにある人及び家族の特徴を全人的に理解し、QOLの維持・向上を目指す支援について説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	慢性期看護の概要	科目ガイダンス後に慢性期疾患および慢性期にある成人とその家族の看護について、ピア・インストラクションなどに取り組みながら学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				内藤 亜由美
2	呼吸器機能障害のある人の看護	慢性期閉塞性肺疾患(COPD)の病態・症状・治療、それらが対象者の生活に与える影響、生活調整・生活の再構築へ向けたアセスメントの視点、看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				石橋 史子
3	循環機能障害のある人の看護	心不全患者の病態・治療、それらが生活に与える影響とセルフ・マネージメントに向けたアセスメントの視点と看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				伊藤 ふみ子
4	内分泌機能障害のある人の看護 ① 主な内分泌疾患の理解、糖尿病の病態、治療、セルフマネジメント	主な内分泌疾患・糖尿病(1型糖尿病・2型糖尿病)の病態・治療の理解、糖尿病が生活に与える影響とセルフ・マネージメントに向けたアセスメントの視点と看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				伊藤 ふみ子
5	内分泌機能障害のある人の看護 ② 生活調整と生活の再構築	糖尿病の病態、治療が生活に与える影響と生活調整・生活の再構築に向けた支援について、ピア・インストラクションを行いながら学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				伊藤 ふみ子
6	栄養代謝機能障害のある人の看護	肝炎および肝硬変の病態・治療・患者の看護について、ピア・インストラクションなどに取り組みながら学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				内藤 亜由美
7	身体防御機能障害のある人の看護	感染症に罹患している患者の特徴と看護一結核・HIV/AIDSを中心に学修する。 事前学習(30分)教科書9の該当箇所を読む 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				渡部 節子
8	内部環境調節機能障害のある人の看護① 腎炎・慢性腎不全・慢性腎臓病	腎炎・慢性腎不全・慢性腎臓病の病態・治療、それらが生活に与える影響、生活調整、生活の再構築のアセスメントの視点、看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				倉橋 悠子
9	内部環境調節機能障害のある人の看護② 透析療法	透析療法を受ける患者のセルフケアに向けた看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				倉橋 悠子
10	脳・神経機能障害のある人の看護	脳卒中の病態・症状、それらが生活に与える影響と生活の再調整のためのアセスメントの視点と看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書8の該当箇所を読む 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				野口 京子
11	身体防御機能・運動障害のある人の看護	全身性エリテマトーデス(SLE)や関節リウマチの病態・治療、それらが生活に与える影響、生活調整、生活の再構築のアセスメントの視点、セルフケアに向けた看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。				石橋 史子

12	消化器系機能障害のある人の看護	慢性便秘症、炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)の病態、治療、看護について、ピア・インストラクションなどに取り組みながら学修する。 事前学習(30分)教科書5の該当箇所を読む 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	内藤 亜由美
13	外来でがん治療を必要とする人の看護(外来化学療法)	外来におけるがん治療患者の理解と継続治療と生活調整に向けた看護、抗がん薬曝露対策の実践について学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リアクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	清水 奈緒美
14	人生の最期のときにある人および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護①生命を脅かす疾患	生命を脅かす疾患を抱える患者の苦痛と緩和ケアの理解 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	岡 多恵
15	人生の最期のときにある人および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護②エンド・オブ・ライフケア	エンド・オブ・ライフケア 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	三堀 いずみ

評価	各講義での小テスト45%、定期試験55%。
課題に対するフィードバックの方法	復習テストの回答は、次回講義時に正解を配布する。
教科書	【第1回】系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[1]成人看護学総論/小松浩子他/医学書院/第16版/ISBN9784260047012 【第2回】系統看護学講座専門分野成人看護学[2]呼吸器/川村雅文他/医学書院/第16版/ISBN9784260053099 【第3回】系統看護学講座専門分野成人看護学[3]循環器/吉田俊子他/医学書院/第16版/ISBN9784260053112 【第4回】系統看護学講座専門分野成人看護学[6]内分泌・代謝/吉岡成人/医学書院/第16版/ISBN9784260053105 【第5回】系統看護学講座専門分野成人看護学[6]内分泌・代謝/吉岡成人/医学書院/第16版/ISBN9784260053105 【第6回】系統看護学講座専門分野成人看護学[5]消化器/南川雅子/医学書院/第16版/ISBN9784260053006 【第7回】系統看護学講座専門分野成人看護学[11]アレルギー・膠原病感染症/岩田健太郎/医学書院/第15版/ISBN9784260038584 【第8回】系統看護学講座専門分野成人看護学[8]腎・泌尿器/大東貴志/医学書院/第16版/ISBN9784260053143 【第9回】系統看護学講座専門分野成人看護学[8]腎・泌尿器/大東貴志/医学書院/第16版/ISBN9784260053143 【第10回】系統看護学講座専門分野成人看護学[7]脳・神経/井出隆文/医学書院/第15版/ISBN9784260035613 【第11回】系統看護学講座専門分野成人看護学[10]運動器/田中栄/医学書院/第15版/ISBN9784260035651 系統看護学講座専門分野成人看護学[11]アレルギー・膠原病感染症/岩田健太郎/医学書院/第15版/ISBN9784260038584 【第12回】系統看護学講座専門分野成人看護学[5]消化器/南川雅子/医学書院/第16版/ISBN9784260053006 【第13回】系統看護学講座専門分野成人看護学[4]血液・造血器/飯野京子/医学書院/第16版/ISBN9784260053068 【第14回】系統看護学講座別巻がん看護学/小松浩子/医学書院/第3版/ISBN9784260042161 【第15回】系統看護学講座別巻がん看護学/小松浩子/医学書院/第3版/ISBN9784260042161
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	・ 全回を通して、manabaでのリフレクションペーパーの作成と復習テストを実施することにより、学修内容の理解を深めるように構成されている。 ・ 適宜、ピア・インストラクションによる学生相互の学修を図り、空欄を作った資料配布し解答を考える虫食い問題に取り組むことで学修の動機付けと学生自身の理解度の確認ができるように構成されている。
実務経験のある教員による授業	成人を対象とする慢性期看護の経験を持つ教員が授業を担当する。
留意事項	・ 講義には各回が指定する教科書を持参すること。 ・ 各回で学修予定の疾患について、既習科目(特に病態学Ⅰ～Ⅲ)の教科書・講義資料を必ず復習して講義に臨むこと。 ・ 本科目は、慢性期看護実習の学修の基盤となるものである。学修を積み重ねられるよう、ノートの作成を推奨する。 ・ 講義後のmanabaへのリフレクションペーパーの提出がない場合、出席扱いにはしない。 ・ 授業中の私語を慎むこと。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験のある教員 による科目
急性期看護実習 Clinical Practice in Fundamental		必修	実験・実習	4単位 (180時間)	3年後期	山勢善江、伊藤ふみ子、櫻井友子、野口京子、倉橋悠子、坂口達哉	○
ナンバリングコード	HNFS2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP2)エビデンスに基づく実践力 DP5)安全を保障する力					
臨地実習							

授業概要	<p>急激な生活環境や健康状態の変化をきたした対象者および家族に対して、身体的および心理社会的側面からアセスメントして、ケアの優先順位を判断し、実践およびその評価を行う。一連の看護過程の展開を通して、急性期看護について学修する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の病態と治療・処置の関連を理解し、治療や処置に伴う日常生活の制限から生じる身体的・心理的・社会的苦痛をアセスメントする。 2) 対象者の状態にあわせたケアの優先順位を考え、エビデンスに基づく看護を実践する。 3) 急激な健康状態の変化をきたしている対象者の、治療や看護を実践する上での安全確保の必要性について理解する。 4) 対象者の急激な状態変化に合わせ、適切なコミュニケーションを実践する。 5) 急性期医療における看護師と他職種の役割を理解する。 6) 対象者および対象者を取り巻く人々の人権を擁護する。 7) フィールドワークをもとに、指定地域の災害急性期・亜急性期の想定被災状況について理解する。
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間: 4週間(2025年9月1日～12月19日) 2. 実習施設(予定) インホスピタル実習: 湘南東部総合病院、茅ヶ崎中央病院、大和成和病院 プレホスピタル実習: 神奈川県内防災センター、県内消防本部 3. 実習方法 1) 4週間のうち2週間はプレホスピタルケア実習、2週間は病院内でインホスピタルケア実習を実施する。 2) <プレホスピタルケア実習> ・災害やテロなど生活環境が急激に変化した状況下を、地域、防災センター、消防本部で学修する。 ・学修した内容をもとに、学内でプレホスピタルケアにおける看護について実習する。 3) <インホスピタルケア実習> ・急性疾患や事故などにより個人や家族の健康状態が急激に変化した患者とその家族への看護を、実習病院で患者を受け持ち学修する。 4. 実習内容 1) 各実習施設よりオリエンテーションを受ける。 2) プレホスピタルケア施設での実習では、災害体験や講話をもとに生活環境が急激に変化することが、人々の健康に及ぼす影響を学修する。 3) 自分の居住地や学校周辺の防災マップ作成、減災方法、大学のBCP等についても学修する。 4) インホスピタルケア施設での実習では、急病・事故・手術・侵襲的検査を受けた患者を受け持ち、患者とその家族への身体・心理・社会的な影響と看護について学修する。 5) 実習を通して、プレホスピタルとインホスピタルにおける医療関係職種との協働と連携の実際を知る。

評価	実習評価表に基づき、実習目標の達成度、記録内容、実習態度、カンファレンス参加状況を総合的に判断する。
課題に対する フィードバックの方法	実習要項を参照。
教科書	なし
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	実習
実務経験のある 教員による授業	担当教員は看護師としての臨床分野の経験を活かした実習指導を行う。
留意事項	看護学生として基本的な身嗜みを整え、真摯な態度で実習に臨む。 実習要項を熟読し、健康管理・時間管理を適切に実施する。